

(案)

# 第4次国有林野施業実施計画書

(富士森林計画区)

計画期間 自 平成23年4月 1日  
至 平成28年3月31日

関東森林管理局

## 目 次

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域	1
2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積 又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごと の更新方法及び更新量	1
(1) 伐採造林計画簿	1
(2) 水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別面積等	1
(3) 水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別の上限伐採面積	2
(4) 資源の循環利用林における生産群別の面積等	3
(5) 資源の循環利用林における生産群別の標準伐採量	3
(6) 伐採総量	4
(7) 更新総量	5
(8) 保育総量	5
3 林道の整備に関する事項	6
4 治山に関する事項	7
5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域	8
(1) 保護林の名称及び区域	8
(2) 緑の回廊の名称及び区域	10
6 レクリエーションの森の名称及び区域	13
7 その他必要な事項	17
(1) 施業指標林、試験地等	17
(2) フィールドの提供	19
(3) その他	20

## 1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域

国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域については、別添国有林野施業実施計画図による。

## 2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

### (1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、別添伐採造林計画簿に示すとおりである。

### (2) 水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別面積等

（単位：面積ha、伐期齢 年）

施業群	面積	取扱いの内容	伐期齢又は回帰年
スギ 長伐期	137.92	伐採面積の縮小、モザイク的配置	100
スギ 分散伐区	—	—	—
ヒノキ 長伐期	3,362.73	伐採面積の縮小、モザイク的配置	100
ヒノキ 分散伐区	—	〃	—
ヒノキ枝打分散伐区	—	—	—
アカマツ 長伐期	—	—	—
アカマツ 分散伐区	—	—	—
カラマツ 長伐期	—	—	—
カラマツ 分散伐区	—	—	—
スギ 複層林	47.66	水源かん養機能に配慮した非皆伐	55～110
ヒノキ 複層林	383.52	〃	60～120
その他 複層林	—	—	—
天然生アカマツ分散伐区	—	—	—
ぼう芽 分散伐区	—	—	—
天然林漸伐分散伐区	—	—	—
ブナ漸伐 分散伐区	—	—	—
択伐	2,348.83	(注) 1による	回帰年は定めない
その他	547.42	(注) 2による	定めない
施業群設定外	—	—	—
合計	6,827.08		

(注) 1 択伐施業群の伐採は標準伐期齢以上とし、水源かん養機能の発揮に配慮しつつ隣接林分の主伐、間伐時に併せるなど適時に行うものとする。

2 保護樹帯の伐採は、保護樹帯設定基準によるものとする。

## (3) 水土保全林（水源かん養タイプ）における施業群別の上限伐採面積

(単位：h a)

施業群	上限伐採面積	摘要
スギ長伐期	7	
スギ分散伐区	—	
ヒノキ長伐期	168	
ヒノキ分散伐区	—	
ヒノキ枝打分散伐区	—	
アカマツ長伐期	—	
アカマツ分散伐区	—	
カラマツ長伐期	—	
カラマツ分散伐区	—	
スギ複層林	4	
ヒノキ複層林	32	
その他複層林	—	
天然生アカマツ分散伐区	—	
ぼう芽分散伐区	—	
天然林漸伐分散伐区	—	
ブナ漸伐分散伐区	—	
択伐	235	
その他	55	
施業群設定外	—	
合計	501	

(4) 資源の循環利用林における生産群別の面積等

(単位：面積 h a、伐期齢 年)

生産群	面積	生産目標等	伐期齢又は回帰年
スギ 大径材	—	—	—
スギ 中径材	4.01	一般建築材 (22-26cm)	5 5
ヒノキ 大径材	—	—	—
ヒノキ 中径材	372.43	一般建築材 (22-24cm)	6 0
ヒノキ 無節柱材	—	—	—
アカマツ 大径材	—	—	—
アカマツ 中径材	—	—	—
カラマツ 大径材	—	—	—
カラマツ 中径材	1.12	一般建築材 (22-24cm)	6 0
スギ 複層林	—	—	—
ヒノキ 複層林	—	—	—
その他 複層林	—	—	—
天然生アカマツ中径材	—	—	—
ぼう 芽	—	—	—
天然林 漸伐	—	—	—
ブナ 漸伐	—	—	—
択伐	—	—	—
その他	—	—	—
生産群設定外	—	—	—
合計	169.58		

(注) 1. 「生産目標等」の数値は、生産目標とする胸高直径である。

(5) 資源の循環利用林における生産群別の標準伐採量

当該森林計画区の「資源の循環利用林」は分収林が大部分であり、標準伐採量は定めないこととする。

## (6) 伐採総量

(単位：面積ha、材積)

区 分		林 地					林 地 以 外	合 計	
		主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐 採 量	計			
水 土 保 全 林	国土保全タイプ	—	288 (4.45)	288	5,000	104,764	—	104,764	
	水 源 か ん 養 タ イ プ	スギ長伐期	—	653					653
		スギ分散伐区	—	—					—
		ヒノキ長伐期	—	48,035					48,035
		ヒノキ分散	—	—					—
		スギ複層林	—	130					130
		ヒノキ複層	—	6,978					6,978
		天然林漸伐 分散伐区	—	—					—
		択 伐	—	25,961					25,961
		そ の 他	—	1,698					1,698
		小 計	—	83,455 (1,202.44)					83,455
		計	—	83,743 (1,206.89)					83,743
		森 林 と 人 の 共 生 林	自然維持タイプ	—					998 (22.41)
森林空間利用 タイプ	—		15,023 (275.25)	15,023					
計	—		16,021 (297.66)	16,021					
資 源 の 循 環 利 用 林	スギ中径材	—	—	—	1,800	29,296	—	29,296	
	ヒノキ中径材	25,869	1,627	27,496					
	計	25,869	1,627 (27.27)	27,496					
合 計		25,869	101,391 (1,531.82)	127,260	6,800	134,060	—	134,060	
年 平 均		5,174	20,278 (306.36)	25,452	1,360	16,562	—	26,812	

(注) ( ) は、間伐面積である。

## (7) 更新総量

(単位：h a)

区 分		水 土 保 全 林			森林と人との共生林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タイプ	水 源 かん養 タイプ	計	自 然 維 持 タイプ	森 林 空 間 利 用 タイプ	計		
人 工 造 林	単層林造成	—	21.82	21.82	—	—	—	78.79	100.61
	複層林造成	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	—	21.82	21.82	—	—	—	78.79	100.61
天 然 更 新	天然下種第1類	—	—	—	—	—	—	—	—
	天然下種第2類	—	—	—	—	—	—	—	—
	ぼう芽	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計		—	21.82	21.82	—	—	—	78.79	100.61

## (8) 保育総量

(単位：h a)

区 分		水 土 保 全 林			森林と人との共生林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タイプ	水 源 かん養 タイプ	計	自 然 維 持 タイプ	森 林 空 間 利 用 タイプ	計		
保 育	下刈	—	230.68	230.68				78.79	309.47
	つる切		75.94	75.94		5.4	5.4	11.38	92.72
	除伐	0.03	245.13	245.16		21.29	21.29	24.94	291.39

### 3 林道の整備に関する事項

基幹・ その他別	開設 ・ 改良別	路線名	箇所 (林班)	延長 (m)	備考
その他	開設	大淵	202	1,200	
	小計	1路線		1,200	
基幹	改良	富士山(上井出)	27、251	100	洗越工
		愛鷹(愛鷹)	民有地	40	コンクリート ウォール外
		愛鷹(池ノ平)	432、438	500	舗装
		湯船(湯船)	536、537	120	コンクリート ウォール外
		湯船(唯念寺)	536	30	コンクリート ウォール外
		乙女(乙女)	559	40	コンクリート ウォール外
	小計	6路線		830	
その他	改良	北山	523	50	コンクリート ウォール外
		大野支線	525、526	20	ブロック積外
		大野	民有地	20	コンクリート ウォール外
		細野沢支線	444、446	500	舗装
		4路線		590	
	開設	1路線		1,200	
	改良	10路線		1,420	

#### 4 治山に関する事項

位 置 (林 班)	区 分	工 種	計 画 量
27、68、69、71、101、102、254、265、559 560、561、562	保 安 施 設	溪 間 工	20箇所
合 計	保 安 施 設	溪 間 工	20箇所

## 5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

### (1) 保護林の名称及び区域

当計画区には、動植物の保護、遺伝資源の保存等を図ることを目的として、下記のとおり保護林を設定し、貴重な天然林等の自然環境維持に配慮しながら適切に保護、保存を図っていくこととする。

種 類	名 称	新既 設別	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
林木遺伝資源保存林	富士山大沢 カラマツ・ イラモミ・ ウラジロモ ミ群落	既設	252.39	46い、ろ 47～49全 52い～は 53い 74い、に～へ、ハ ニ	富士山の西面、山梨県境に接し、標高1,500～2,800mに位置する、カラマツ、イラモミ、ウラジロモミ等を主とする大径木が多い天然林で、富士山の垂直分布が模式的に見られる。原生的な自然環境にあるが、近年ニホンジカの生息が確認されており、今後増加も予想されることから、引き続き経過観察のうえ対応を検討する。
	愛鷹山ブナ ・スギ群落	既設	570.17	447全 448全 449全 450全 451全 452い～は、り、る わ、う 453全	愛鷹山から北へ位牌岳、越前岳とつながる稜線から北東面及び南東面に広がる、ブナ、ミズメ、ヒメシヤラ等の落葉広葉樹を主とした天然林。ブナの純林やスギの天然林があり、林内にはアシタカツツジが自生する。引き続き現状が維持できるよう管理することとする。
	浅木塚 ヒノキ群落	既設	20.43	464い 470は	丸尾と呼ばれる富士山の溶岩流の上に生育する天然ヒノキの群落。溶岩流の上の植生遷移を知る上で貴重だが、近年ニホンジカによる樹皮の剥皮被害が周囲の人工林に多いことから、引き続き経過観察のうえ対応を検討する。
林木遺伝資源保存林計			842.99		
植物群落 保護林	富士山 <sup>とや</sup> 峠塚 亜高山帯	既設	4.84	5ろ	ウラジロモミ、ハリモミ等の針葉樹にブナ、ミズナラ等の落葉広葉樹が混交する天然林。近年ニホンジカによる樹皮の剥皮被害が周囲の人工林に多いことから、引き続き経過観察のうえ対応を検討する。

種 類	名 称	新既 設別	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
植 物 群 落 保 護 林	富士山六番 低 山 帯	既設	6.17	169ち、か、そ、ま	富士山の低山帯植生を代表するブナ、カエデ等落葉広葉樹の天然林。林内の稚樹や幼樹が生育していないため、今後の推移を観察する必要がある。また、周囲の人工林にニホンジカによる植栽木の食圧や樹皮剥ぎ等の被害が多いことから、引き続き経過観察のうえ対応を検討する。
	富士山 亜高山帯	既設	680.19	122い、に～と ロ～ニ 172い～り 182い <sub>2</sub> 201ほ、へ 459い、ろ、に 464ろ、は 483い～と、ぬ～わ よ～ね	富士山南面の標高1,500～2,300mに位置する亜高山帯植生を代表する針葉樹の天然林。富士山植生の垂直分布が見られる原生的な自然環境であるが、近年ニホンジカの生息が確認されており、今後増加も予想されることから、引き続き経過観察のうえ対応を検討する。
	富士山東白 塚低山帯	既設	74.08	185ち、り 203ち、り 470ろ 478い、ろ	富士山の低山帯を代表するブナ、ミズナラ等落葉広葉樹を主とする天然林。ブナ、ミズナラの個体数は少なく、スズタケの繁茂等により次世代の稚幼樹がほとんど見られないことから、今後の推移を観察する必要がある。また、周囲の人工林にニホンジカによる植栽木の食圧や樹皮剥ぎ等の被害が多いことから、引き続き経過観察のうえ対応を検討する。
植 物 群 落 保 護 林 計			765.28		
特定地理等 保護林	富士山	既設	926.91	74ぬ、る、イ 122ち、イ 172ニ 201イ 483ニ 484ニ 499イ 500や、レ	富士山山頂付近の特異な地形、地質を有する区域。多くの登山者が当保護林内を利用することから、歩道の整備等を行い、健全な状態が維持できるよう引き続き管理することとする。
特定地理等保護林計			926.91		
合 計			2,535.18		

(2) 緑の回廊の名称及び区域

より広範で効果的な森林生態系の保護・保全に努めるため野生動植物の移動経路を確保し、生息・生育地の拡大と相互交流を促すことを目的として、下記のとおり緑の回廊を設定する。

名 称	新既 作設	延 長 (km)	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
富 士 山 緑 の 回 廊	既設	24.0	2,119.35	1全 2全 4全 5い <sub>1</sub> 、い <sub>2</sub> は～と 50全 51全 52に 53ろ 54全 55全 56全 57全 58全 59全 60全 61全 62全 74ろ 75全 76全 77全 78全 79全 80全 81全 82全 83全 84全 85全 86全 87全 88全 89全 90全 91全 122は 123い～は 124い、ろ 125全 126い～ほ	<p>「浅木塚ヒノキ群落林木遺伝資源保存林」から「富士山嵯塚亜高山帯植物群落保護林」までの5つの保護林を結び、山梨県有林へとつながる、富士山中腹の標高約1,600mから森林限界の幅で帯状にほぼ一周する地域である。</p> <p>人工林は適切に保育、間伐を行い、皆伐する場合でも小面積かつ分散させ、立地条件に応じて長伐期又は育成複層林施業を採用する。また、天然林は木材生産を目的とした伐採は行わず、現状が維持できるよう管理することとする。</p>

名 称	新既 作設	延 長 (km)	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
富 士 山 緑 の 回 廊				127い～は <sub>4</sub> 128い～は 129全 130全 131全 132全 133全 134い～は 135い～は 173全 174い 176全 177い～へ 178い～と 179全 180全 181い～く 182い <sub>1</sub> 、ろ 185い～と <sub>2</sub> ぬ～か 201い～に、と～る 459は、ほ、へ 460全 461全 462全 463い～に 465い～ち、ロ 466全 467全 468全 469い～は 470い、に 471い～ほ 472い～つ 473い～り 474い～り 475い～は 476り 483ち <sub>1</sub> ～り、か む、う 484い～く	
丹 沢 緑 の 回 廊	既設	6.0	593.10	506全 507全 508全	神奈川計画区の「丹沢山地森林生物遺伝資源保存林」から「西丹沢モミ植物群落保護林」を結

名 称	新既 作設	延 長 (km)	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
丹沢緑の回廊				509全 510全 511全 512全 513全 514全 515全 518い <sub>1</sub> ～ぬ 519い～に 520い～と 521い 522い 523い <sub>1</sub> ～と 524い～ほ、ハ 525い <sub>1</sub> ～ち 526い <sub>1</sub> ～と 527い～へ 528全	び、当計画区の角取山につながる回廊である。 脊梁山地を中心に設定しているが、当計画区内の回廊は人工林も多いことから、適切に保育、間伐を行い、皆伐する場合でも小面積かつ分散させ、立地条件に応じて長伐期又は育成複層林施業を採用する。また、天然林は木材生産を目的とした伐採は行わず、引き続き現状が維持できるように管理することとする。
計		30	2,712.45		

6 レクリエーションの森の名称及び区域

種類	名称	新既設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
自然休養林	富士山	既設	1,764.86 ----- 1,559.99 171.02 33.85	富士山の南面に位置し、富士山を身近に感じながら伊豆半島、駿河湾、南アルプス等の美しい眺望を楽しみ、ヒノキ、モミ等の人工林とブナ、ミズナラ、ダケカンバ、カラマツ等の天然林による多様な森林植生の垂直分布を観察、探索することができる。 区域内を「富士スカイライン」が通り入林しやすい環境にあることから、多くの人々がトレッキングや自然観察等に訪れている。 利用者の安全に配慮し、巡視の強化に努めるとともに、危険箇所の早期発見、安全対策を講じることとする。	104ろ <sub>2</sub> ～ほ <sub>2</sub> 108は、に <sub>2</sub> ～へ 111に～り、ぬ <sub>2</sub> わ～れ、つ 114は、ほ、へ <sub>2</sub> ～る わ <sub>2</sub> ～た 117ろ～に、へ <sub>2</sub> 、る 133ろ～に 136ろ～に 137ろ、は 138ろ、は 139は、に 140ろ、に～へ 141い <sub>1</sub> ～に 142は～ほ 143ろ、は 144ろ～へ、ち 145い～ほ 146ろ～に <sub>2</sub> 147は <sub>1</sub> 、は <sub>2</sub> 、ほ～か 148ろ <sub>1</sub> ～へ 149い <sub>1</sub> ～ろ <sub>2</sub> 150ろ、に～へ 152ろ～に、ほ <sub>2</sub> ～へ <sub>5</sub> 153い 154ろ～に 155い <sub>1</sub> ～ろ 156に、へ、と、 り～る、よ、 れ～ね、ら <sub>1</sub> 、ら <sub>2</sub> 157ろ、は、ほ～ぬ わ、か、た 159ろ～に、へ～る よ、た 160い、ろ、に へ <sub>1</sub> ～り 161ろ <sub>1</sub> ～り、る～れ 162い～ち、た、れ 164い <sub>1</sub> ～ろ <sub>2</sub> ろ <sub>4</sub> ～ろ <sub>9</sub> は <sub>1</sub> ～へ、と <sub>2</sub> 、ち 165い～は、ほ～と り、る、わ た～ね	育成複層林 施業

種類	名称	新既設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
自 然 休 養 林	富士山	既設			166ろ <sub>2</sub> ～に、へ、と り、ぬ、わ 167ろ、は 169い <sub>1</sub> 、い <sub>3</sub> 、い <sub>4</sub> 169に～と、り～わ <sub>5</sub> ね～ら、う <sub>1</sub> ～や け、ふ 170い～と 171ろ <sub>2</sub> 、り、る～か れ <sub>1</sub> ～ね、や～え あ 177ろ～へ 178ろ～と 179ろ 180い、に～ち 181い、は～ち、 わ～た、そ～の <sub>1</sub> く 182ろ 183い、は、に 184い、に～と 185ろ～に、へ～と <sub>2</sub> 186い、は～ほ、わ 187ぬ 195ろ <sub>1</sub> ～は <sub>3</sub> 459は、ほ、へ 460ろ 461ろ 463い～に 465い～は、ほ～ち 466い、に、ほ 467ろ、は 468は、に 469い、ろ 470い、に 471い～は、ほ 472ろ～と、り～か た～つ 473ろ～に、へ、ち り 474い、は～ほ、と ち 475い～は 476り	育成複層林 施業
					111る	天然性林施業

種類	名称	新既設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
自 然 休 養 林	富 士 山	既設			114に、れ <sub>2</sub> 117ほ 131い～は 132全 133い <sub>1</sub> 、い <sub>2</sub> 136い <sub>1</sub> 、い <sub>2</sub> 137い 138い 139い、ろ 140い、は 142い、ろ 143い 144い、と 146い、ほ <sub>1</sub> 、ほ <sub>2</sub> 147い <sub>1</sub> ～ろ、に、よ 148い <sub>1</sub> ～い <sub>3</sub> 150い、は 152い 153ろ、は 154い 156ほ、ち、わ、か た、な 157に、る、よ 159い <sub>1</sub> 、い <sub>2</sub> 、わ 160は、ほ 161い、ぬ 165に、ち、ぬ、か よ 166い、ろ <sub>1</sub> 、ほ、ち か 167い、に 170ぬ、る 171い、へ、よ、た な 177い 178い 179い、は 180ろ、は 181ろ、り～る、れ の <sub>2</sub> 、お 182い <sub>1</sub> 183ろ、ほ 184ろ、は 185い、ほ 186ろ、る 187り	天然性林 施業

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
自 然 休 養 林	富 士 山	既設			195い 460い 461い 462い 465に 466ろ、は、へ 467い 468い、ろ 469は 471に 472い、ち、よ 473い、ほ、と 474ろ、へ、り	
					117口 156イ 157イ 159口 160イ、口 161イ、口 162イ 165ハ 166イ 169イ、ホ <sub>1</sub> 、ホ <sub>2</sub> 、チ 170イ 171ハ、ニ 177イ 178イ 181イ～ハ 182イ 183イ 184イ、口 186イ 187イ 195イ 465イ、口 471イ～ホ 472イ～ニ 473イ 474口	林地以外

## 7 その他必要な事項

### (1) 施業指標林、試験地等

種類	名称	設定年	面積 (ha)	位置 (林小班)	備考
施業指標林	天然林施業指標林	H3	2.54	39ほ <sub>1</sub>	天然林施業の確立
施業指標林計			2.54		
試験地	富士ウラジロモミ 収穫試験地	S39	0.34	161は <sub>1</sub> 、は <sub>2</sub>	成長量・収穫量等の資料 収集及び林分構造の推移 の解明
	広葉樹及び針広混 交林の保全試験地	H22	45.88	6い、ろ <sub>1</sub> 、ろ <sub>2</sub> 13い <sub>1</sub> 、い <sub>2</sub> 、ろ、 は	広葉樹林及び針広混交林 の保全に関する研究のため
試験地計			46.22		
次代 検 定 林	一般次代検定林	S50	1.55	104は	(関東20号)
	〃	S50	0.55	152へ <sub>2</sub>	
	〃	S53	1.16	401と	(関東35号)
	遺伝検定林	H4	0.28	416ち <sub>2</sub>	(関東60号)
	育種集団林	H15	0.51	422い <sub>6</sub>	(関東66号)
次代検定林計			4.05		
遺伝子 保存林	遺伝子保存林	S48	3.74	141い <sub>1</sub>	
遺伝子保存林計			3.74		
モデル林	公益的機能重視の 施業モデル林	H13	5.23	267ほ <sub>3</sub>	
モデル林計			5.23		
精 英 樹 保 護 林	スギ沼津4号	S37	0.61	560ろ	
	スギ沼津 101~116号	S40	(単木指定)	452は	
	ヒノキ沼津3号	S35	(単木指定)	560ろ	
	ヒノキ沼津 101~103号	S44	(単木指定)	462い	
	カラマツ沼津 101~102号	S37	(単木指定)	500い	

種 類	名 称	設定年	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	備 考
	カ ラ マ ツ 沼 津 107～115号	S37	(単木指定)	500い	
	ウ ラ ジ ロ モ ミ 静 岡 101号	S37	0.08	8と	
	ウ ラ ジ ロ モ ミ 静 岡 102号	S37	0.15	8ち	
	ウ ラ ジ ロ モ ミ 静 岡 103、112～115号	S38	2.15	62ほ	
	ウ ラ ジ ロ モ ミ 静 岡 104、105号	S38	9.78	13い <sub>1</sub>	
	ウ ラ ジ ロ モ ミ 静 岡 106～109号	S38	6.83	13い <sub>2</sub>	
	ウ ラ ジ ロ モ ミ 静 岡 110号	S39	0.23	201と	
	ウ ラ ジ ロ モ ミ 静 岡 111号	S39	0.25	179は	
	ウ ラ ジ ロ モ ミ 静 岡 116～117号	S39	0.17	18へ	
	ウ ラ ジ ロ モ ミ 沼 津 101～103号	S37	(単木指定)	467い	
	ウ ラ ジ ロ モ ミ 沼 津 104～105号	S37	(単木指定)	500い	
	ウ ラ ジ ロ モ ミ 沼 津 106～108号	S38	(単木指定)	483と	
	ウ ラ ジ ロ モ ミ 沼 津 109～110号	S39	(単木指定)	464ろ	
精 英 樹 保 護 林 計			20.25		
合 計			82.03		

(2) フィールドの提供

対象地（林小班）	設定の目的	備 考
161ろ <sub>3</sub> 、ほ、 166ろ <sub>2</sub>	ふれあいの森	富士山クラブ 西臼塚ふれあいの森 1.77ha 平成12年9月に設定 NPO法人「富士山クラブ」が主体的に活動実施
156ら <sub>2</sub> 157ほ 162た、れ 170へ、と <sub>1</sub> 、ち		ドングリの会の森づくり活動 4.35ha 平成13年4月に設定 NPO法人「ドングリの会」が主体的に活動実施
546ろ <sub>2</sub>	社会貢献の森	ドングリの森 1.98ha 平成18年2月に設定 NPO法人「ドングリの会」が主体的に活動実施
482い <sub>16</sub>		東富士湧水涵養の森づくり活動 4.92ha 平成13年4月設定 「柿田川・東富士の地下水を守る連絡会」が主体的に活動実施
155ろ 160り 161と <sub>2</sub> 、ち <sub>1</sub> ～ち <sub>9</sub> 、た <sub>1</sub> 、た <sub>2</sub>	ボランティアの森	富士山自然の森 11.92ha 平成10年4月設定 NPO法人「富士山自然の森づくりの会」が主体的に活動実施
200と		富士山の森再生プロジェクト 4.41ha 平成19年4月設定 NPO法人「ドングリの会」が主体的に活動実施
200た		富士山森の復元活動 4.56ha 平成15年6月設定 NPO法人「山の自然学クラブ」が主体的に活動実施
471い		ゼファーの森 1.49ha 平成19年8月設定 「富士山ナショナル・トラスト」が主体的に活動実施
199よ <sub>1</sub>		ブナ林創造事業 0.17ha 平成14年6月設定 「富士マウントライオンズクラブ」が主体的に活動実施
184ろ 196い <sub>4</sub>		富士山麓ブナ林創造事業 2.25ha 平成18年12月設定 「富士市」が主体的に活動実施

(3) その他

レクリエーションの森以外の森林空間利用タイプの施業方法

位 置	面 積 (ha)	施 業 方 法
1い <sub>1</sub> ～ろ <sub>2</sub> 2全 4い <sub>1</sub> 、い <sub>2</sub> 、ろ～は <sub>2</sub> 5へ <sub>2</sub> 、と 6全 7い <sub>1</sub> ～ろ <sub>2</sub> 8い～へ 10い、ろ、は <sub>2</sub> ～ほ <sub>2</sub> 11は 12に 13ろ～ほ 14全 15ろ～と 20全 21全 22い <sub>1</sub> ～へ、ち、り 58ろ <sub>2</sub> 60い <sub>2</sub> 、は 61い 63は～ほ 64い <sub>1</sub> 65は <sub>2</sub> 66ろ、は 67全 88ろ 89ろ 92に 93ろ、は <sub>2</sub> 94は 95ろ 117と <sub>2</sub> ～ぬ 156ろ、は 157い 162り～よ 166る 169ろ、よ～れ 170ち、れ <sub>1</sub> 、れ <sub>2</sub> 、つ <sub>1</sub> 、つ <sub>2</sub> 171ろ <sub>3</sub> 、と、ち、ら、む、の、く 439へ 440へ 441は、に 463ほ 469に、へ		育 成 複 層 林 施 業

位 置	面 積 (h a)	施 業 方 法
473ぬ 474ぬ、わ、か 475に～ら 476い～は、ほ、と、ぬ～わ <sub>3</sub> 477い <sub>1</sub> 、い <sub>3</sub> 、は、に、と 479ろ、は 566は <sub>2</sub> 575ろ 577と、り		
1は 7は 8と、ち 13い <sub>1</sub> 、い <sub>2</sub> 15い 22と 156い 170た、そ 171ぬ、て 437へ 438ろ 469ほ 472ね 473り 474る、よ 476に、へ、ち 477ほ、へ 478は 479い 570ほ 571と 572い 575い、へ 576い 577へ、ち		天 然 生 林 施 業
169ハ、ト <sub>1</sub> ～チ <sub>1</sub> 171ロ 474イ 475イ 476イ 477イ 479イ		林 地 以 外
計	1,010.96	

(注) (1)、(2)の箇所を除く。